

主な内容

- 2面 介護予防サービスが変わります
- 4面 11月は児童虐待防止推進月間
- 5面 子どもルーム利用児童募集
- 6面 自転車を活用したまちづくりを推進します
- 12面 区版



千葉市役所 ☎043-245-5111 (大代表) 〒260-8722千葉市中央区千葉港1番1号 ホームページ 千葉市



●人口 974,306人 前月(9月)比 333人増(男 483,774人 女 490,532人) ●世帯数 422,699世帯 ●面積 271.77km²(平成28年10月1日現在) *国勢調査の人口速報に基づく推計値

市役所 区役所 へのお問い合わせは **市役所コールセンター ☎043-245-4894** (しゃくしよ) ☎043-248-4894 *電話での受け付けは8:30~21:00 (土・日曜日、祝・休日は17:00まで)

健全化判断比率

地方公共団体は、財政状況を明らかにし、財政の健全化や再生の必要性を判断するための指標である「健全化判断比率」(下記4つの比率の総称)の公表を求められています。各比率の数値が低いほど財政が健全とされています。

区分	平成27年度	平成26年度	前年度比較
実質赤字比率	赤字なし	赤字なし	引き続き黒字のため発生なし
連結実質赤字比率	赤字なし	赤字なし	
実質公債費比率	18.0%	18.4%	0.4ポイント改善
将来負担比率	208.7%	231.8%	23.1ポイント改善

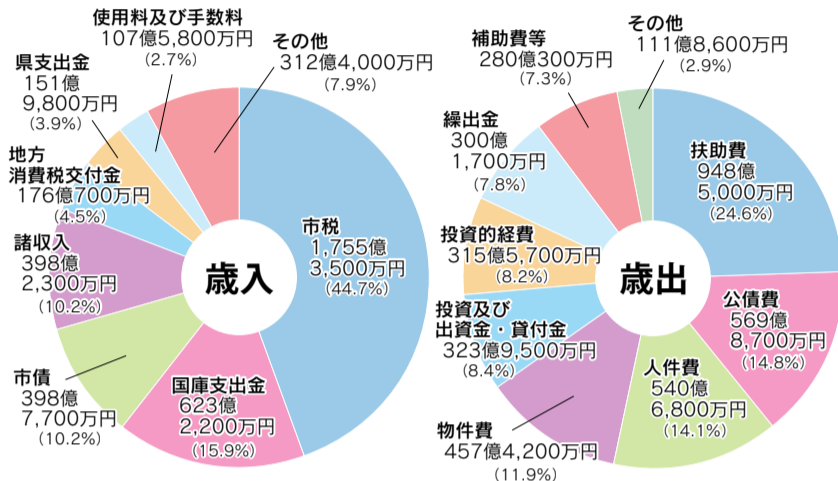
用語解説

- 実質赤字比率 一般会計などを対象とした実質赤字額が、収入に占める割合
- 連結実質赤字比率 すべての会計を対象とした実質赤字額が、収入に占める割合
- 実質公債費比率 その年に支払った借入金返済額が、収入に占める割合
- 将来負担比率 将来、市が負担する借金が、収入に占める割合

一般会計の決算額

市税や地方消費税交付金が予算と比べ増収となったことなどから、実質収支は前年度の29億7,200万円を上回る45億4,100万円の黒字となりました。

歳入 3,923億6,000万円 対前年度比130億900万円増(3.4%増) 歳出 3,848億500万円 対前年度比87億1,100万円増(2.3%増)



実質収支 45億4,100万円 対前年度比15億6,900万円増(52.8%増)

用語解説

実質収支 歳入と歳出の差額から翌年度への繰越事業に充てる財源を差し引いた額

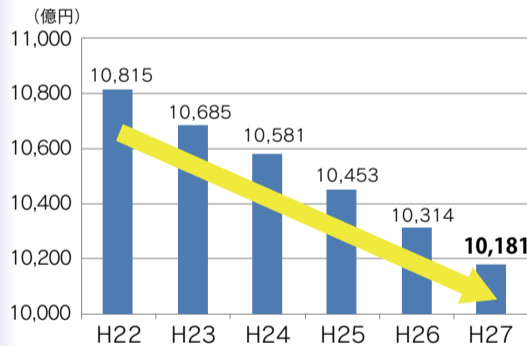
決算は、議会に報告し、予算の使い方が適正であったかどうか認定を受けます。平成28年第3回定例会で認定を受けた平成27年度一般会計決算の概要や、健全化判断比率についてお知らせします。

平成27年度決算

財政健全化に向けた取り組みの進捗状況

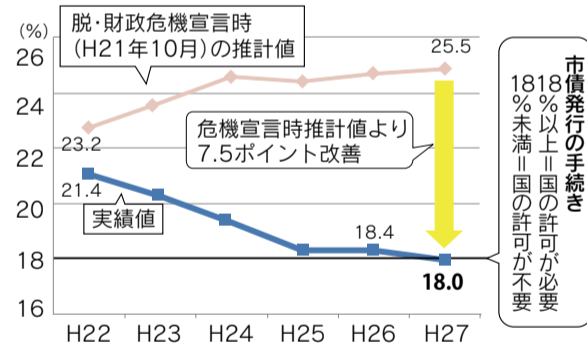
全会計の市債残高 1兆181億円

建設事業の厳選により市債の発行抑制に努めました。⇒5年連続で100億円以上削減



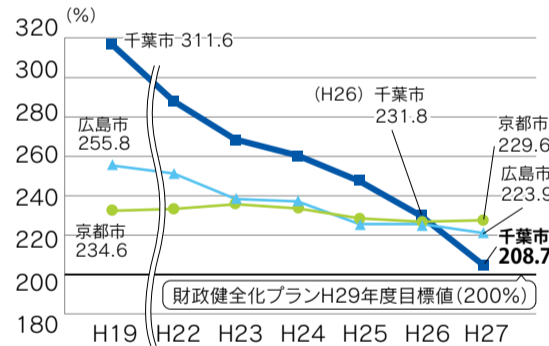
実質公債費比率 18.0%

市債の発行手続きが緩和される18.0%未達が目前となりました。⇒18.0%未達となると国の許可が不要



将来負担比率 208.7%

算定が始まった平成19年度から平成26年度まで政令市ワーストでした。⇒政令市ワーストを脱却(速報値)



今後の見通し

これまでの取り組みの成果が表れ、各種指標が改善し市債残高も圧縮しましたが、財源対策として活用した基金からの借入残高や国民健康保険事業の累積赤字が依然として多額であることから、今後も厳しい財政状況が続くことが予想されます。このため、引き続き財政健全化に向けた取り組みを推進します。

問い合わせ 財政課 ☎245-5077 ☎245-5535 詳しくは、財政課ホームページをご覧ください。 千葉市 平成27年度決算

市長メッセージ(第78号) 熊谷 俊人



平成27年度決算は一般会計で45億円の黒字となりました。

全会計の市債残高も133億円削減し、これで5年連続で100億円以上の削減となります。また、第2期財政健全化プランで位置付けた基金借入金残高や国民健康保険累積赤字額などの主要債務総額も残高は5,505億円で、24年度からの削減額が757億円となり、プラン通り着実に将来の負債の削減が進んでいます。

その結果、主な財政指標も改善が続いており、特に将来負担比率はこの指標が誕生して以来、千葉市は長らく政令市ワースト1位でしたが、平成27年度は208.7%と23.1ポイント改善し、京都市・広島市を抜き、20政令市中18位となりました。私が就任した平成21年度は306.4%だったので6年間で100ポイント近く改善したことになります。

経済状況の悪化により市税収入が大幅に減少し、極めて厳しい状況に直面した平成21年に“脱・財政危機宣言”を発出し、私を始め市職員の大規模な

給与カット、各種事業の見直し、創意工夫による費用節減、企業誘致などによる歳入確保など、あらゆる対策を積み上げてきた成果が表れているものと考えています。

これもひとえに議会、市民の皆様のご理解とご協力によるものと改めて感謝いたします。

しかし、危機を脱しつつあるとはいえ、他の政令市に比べて厳しい財政状況に変わりはありません。今回15年ぶりに40億円を上回る黒字決算で財政調整基金の積立残高を54億円とすることができましたが、他市に比べれば少額で、市債管理基金等からの借り入れも多額に上っています。過去に大量に発行した市債の返済がピークを迎えている中、景気低迷などで税収が落ち込めば、あつという間に予算繰りが難しくなることが予測されます。

今後も気を緩めることなく財政健全化に努め、超高齢化への対応、子育て支援、経済活性化等に十分な財源を注げる財政状況の確立を目指してまいります。